

調査報告

夏期発掘調査報告 山梨県北杜市梅之木遺跡

山 本 暉 久

歴史文化学科では、1999（平成11）年より2004（平成16）年まで、6次にわたり神奈川県足柄上郡大井町中屋敷遺跡の発掘調査を実施してきた。引き続き発掘調査の継続を希望していたが、地権者の都合により調査の継続が困難となった。本学科で考古学を専攻希望する学生は毎年おり、また、大学院への進学率も高い。考古学はいうまでもなく、遺跡の発掘という野外調査を通じて研究を行っていく必要がある。そのための基礎的な訓練の場として、本学科では、実習科目として、「考古学実習」を開設しているが、室内での遺物整理作業の訓練の場として位置づけている。

そのため、2005（平成17）年度から、新たな遺跡の調査場所の選定が必要となった。幸い、平成16年度から、山梨県明野村（現・北杜市）に所在する縄文時代中期の集落遺跡である梅之木遺跡の調査指導委員会のメンバーに、山本暉久が加わっていたことから、北杜市教育委員会にお願いして、夏期休暇を利用して約2週間発掘調査に参加することになったものである。

調査にあたって、文科省の「平成17年度大学教育高度化推進特別補助」の内の補助項目「教育・学習方法の改善」に、「縄文時代における環状集落跡形成過程の研究」と題する課題で申請したところ、採択されたので、その補助金を調査費用に充てることとした。この補助金申請は4箇年であり、平成20年度まで継続して採択される予定である。

梅之木遺跡はおよそ、4500年前頃の縄文時代中期の拠点的な集落跡であり、これまでの調査により約180軒の竪穴住居跡が中央広場を中心として環状に分布する、典型的な環状集落跡である。遺跡は、山梨県北部の北杜市（旧・明野村）に位置し、茅ヶ岳・金ヶ岳の西麓、標高800mの丘陵地にある。この遺跡は畑地帯総合整備事業という土地改良事業に伴い発掘されて発見されたものである。大規模な縄文時代中期集落跡の存在の可能性が強いことから、工事を中止し、保存を視野に入れて、平成16年度から4箇年かけて遺跡の確認調査が行われることとなり、文化庁の指導により、明野村教育委員会（平成17年度から北杜市教育委員会が引き継ぐ）が、「梅之木遺跡発掘調査指導委員会」を組織し、その指導委員の一人として、山本暉久が委嘱されることとなったのである。

これまで、縄文時代集落跡の研究を重ねてきたこと、とくに「環状集落」という縄文時代独特の集落構造がどのような形成過程を辿って成立したものなのかといった点について関心をいだいてきたこともあり、そうした研究課題の解明にも最適な遺跡であること、また、本学の考古学を専攻する院生・学部生の教育の場としても